

視察報告書

報告者氏名 野村 誠 

- 1 公明党行政視察（流山市内）
- 2 期日
平成30年7月30日（月）
- 3 視察場所
南流山小学校 新設校舎1階ミニアリーナ
- 4 視察事項
夏休みの学校開放による「子どもの居場所作り」事業
- 5 所感等

昨年平成29年の8月に実施した会派の市内視察で、夏休みの学校開放による「子どもの居場所づくり」事業について小山小学校を視察し、今回は試行事業ではなく正式な事業としてスタートした「子どもの居場所づくり」事業について南流山小学校を視察した。この事業の目的は、夏休みの子どもの居場所づくりとして、保護者が日中不在となる児童たちの居場所を設けるため、学校施設の一部を使用して場所の提供を行うもので、体験学習なども実施している。

期間は7月23日～8月31日の平日9時～15時30分（8月13日～15日を除く）で市内の小山小学校、おおたかの森小学校、南流山小学校の3校で実施している。募集対象は、小学1～4年生の各30名×3校の90名に対して、小山小学校は83名、おおたかの森小学校は87名、南流山小学校は62名と合計232名と、大幅に定員をオーバーする応募があり、結局のところ142名の小学校3・4年生が希望していたのにもかかわらず、入ることができない状況となった。このことは、今後の大きな課題として認識した。

「子どもの居場所づくり事業」は予算330万円を計上し、運営体制は現場リー

ダーとして経験豊かな教職員のOBを各校1名配置し、リーダー以外の現場スタッフとして期間限定の臨時職員（普段は学校サポート教員の方もいる。）を各校3名配置し、イベント担当、日直の役割を順番に交代しながら行っている。基本スタンスは「居場所」の提供であるが、簡易なカリキュラムを作成し、体験学習、まち探検（森・神社等）を盛り込んでいる。カリキュラムの種類としては、折り紙講座、紙飛行機講座、サイエンス講座、竹細工講座、レクリエーションゲームなど、工夫をこらした企画が組まれている。

この事業を利用した保護者の方からは、パートで働く方や、親の介護や、入院時などを理由に預ける方が多く、「夏休み期間だけでも預けられると非常に助かります。」との声がある。今後の課題として担当職員に聞いたところ、運営スタッフの不足や、居場所の拡充をしたくてもなかなか学校によっては実施する適当な場所がないことや、更なるカリキュラムの充実などがあるとのこと。

今後も「子ども居場所づくり」拡充、確保は本市において重要な課題であることから、学童クラブの拡充も含め、課題に取り組んでいきたい。